



【功績と推薦理由】

湯本さんは安東勝男研究室の大矢二郎ゼミで、C.Alexsander の設計方法論を知り、今日に至る研究テーマ『設計の下敷きになる社会の仕組みや在り方を踏まえた設計研究』をスタート。その後の活動は、研究・教育・社会貢献を3本柱に多岐に渡り、広く、深く、新しく、建築界、学会、社会に大きな影響を与えています。

九州芸術工科大学及び九州大学での教育研究活動と並行し日本建築学会で各種委員のまとめ役として長年活動し、また環境計画学会、産学連携学会を自ら立ち上げ、知財学会等も含め、従来の価値観に囚われない新たな活動も続けています。稲門建築会では理事を歴任し、特に名簿の電子化で大きな役割を果たし、安東研究室卒業生のまとめ役として見学会・講演会等各種の活動も続けています。

社会貢献活動で特筆すべきは最高裁判所・知的財産専門委員を18年間に亘り務めたことです(9期、2003年～2021年)。知的財産・知的生産に関する知識見識を活かし、高等裁判所・地方裁判所における実裁判の法廷において意見を述べ、適正で円滑な裁判の進行に協力する役割です。第1期創設時から任官、2021年の定年退官時には専門委員を代表して研修会における講師を務め、最高裁判所の歴史に残る専門委員となりました。これは長年の教育、研究活動が最高裁判所から高く評価された結果で、稲門建築会としても名誉なことです。

また長年続けている『建築文化の社会認知』活動への意欲も衰えず、先輩である菊竹清訓さん設計の徳雲寺納骨堂(構造設計:松井源吾先生)10分の1模型等多数の解り易い模型を用いた市民建築文化展の開催も、変わらず企画を練っていると聞いております。

以上の通り湯本さんがその活動を通じて社会へ与えた影響は大変大きく、その功績は早稲田建築が活躍する幅の広さ、奥行の深さを改めて世の中にアピールするもので、稲門建築会の名を高めると言えます。

よってここに稲門建築会特別功労賞(業績)に推薦いたします。

推薦者 齋藤 聡 (苗 1976)

【略歴】

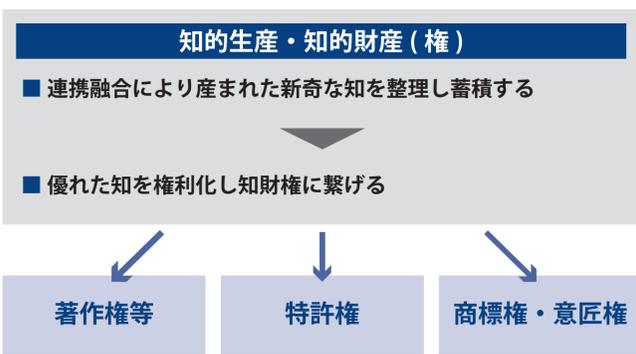
- 永田町小学校・麴町中学校・開成高校卒業(上野浅草界隈下町の発見)
- 1972年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
- 1974年 早稲田大学大学院建築学専攻終了
- 1975年 早稲田大学産業技術専修学校講師
- 1980年 同博士課程修了・満期退学
- 1982年 工学博士学位取得(早稲田大学)、専門学校講師・短期大学教授等
- 1996年 APPI 建築計画研究所開設
- 2001年 九州芸術工科大学教授(九州住まい・地方離島山村の発見)
- 2003年 九州大学教授(産学連携センター/芸術科学技術共同研究センター)
産学連携学会設立(特定非営利活動法人)・初代会長(創立者)
最高裁判所・知的財産専門委員第1期(～9期)
- 2010年 特定非営利活動法人・産学連携学会名誉会長
- 2012年 日本建築学会「建築設計のための行く見る測る考える」鹿島出版会
- 2013年 九州大学定年退職、日本大学工学部建築学科教授
- 2016年 同上定年退職、社会構造設計研究所設立
- 2020年 知的財産専門委員(9期)定年退官、裁判所職員研修会講演
日本建築学会『建築設計のためのプログラム事典』鹿島出版会
- 2022年 現在冬眠中(市民建築文化展毎年開催と建築博物館建設を夢見て)

社会的活動

【主な社会貢献活動】

- ・知的財産専門委員(裁判所)
- ・地域活性化・町興し活動
- ・市民建築文化展(吉阪展九州、A. アアルト展、A N Dアーキテクリングデザイン展、九州大学市民建築文化展)、九州大学芸術文化資料庫事業

■知的財産専門委員



■地域活性化・町興し活動

(一般の方々に建築の文化全般を理解戴く展覧会)



■市民建築文化展



様々な人との出会いがある、建築の文化と価値を伝えられる

【知財専門委員研修講演会】



教育研究活動

【主な教育研究活動】

- ・早稲田大学芸術学校を皮切りに九州芸術工科大学九州大学・日本大学早大理工建築、慶應義塾大学院東京大学、短期大学、女子大学各地の大学で講師、多数(インテリア含む建築設計の講演)

学協会活動

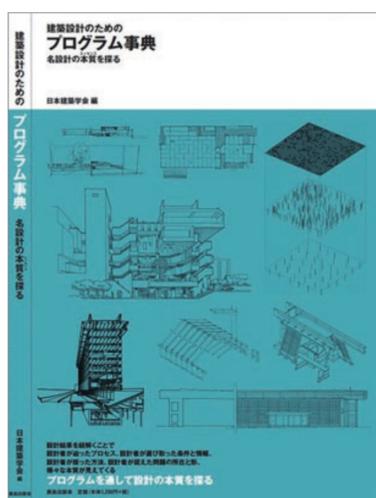
【主な学協会活動】

- ・建築学会、インテリア学会、産学連携学会、知財学会、インテリアプランナー協会、インテリアコーディネーター協会・福岡インテリアコーディネーター協会、インテリア学会、地域開発学会、建築士会、建築家協会

■出版関連



建築設計のための行く見る測る考える



建築設計のためのプログラム事典

■高等裁判所講演会 環境計画学会 産学連携学会 マルチ同窓会

